

きんたろう倶楽部通信

7号

2006年4月23日
きんたろう倶楽部結成
2009年8月の会員数:784名

人びとが暮らすために必要な森づくり。子どもたちがのびのび育つために必要な森づくり。それにはあなたの力が必要です。自然の恵み豊かな富山の里山を、いっしょに創りませんか。

2009年8月24日発行
きんたろう倶楽部事務局
〒930-0151 富山市古沢254番地
富山市ファミリーパーク内
TEL&FAX:076-434-1316
URL: http://kintaroclub.net
E-mail: info@kintaroclub.net

私が生まれ育った京都の家の近くには大徳寺や上賀茂神社などがある、歴史的な背景から近年は訪れる観光客も少なくはなく、とくに昨年からは今年にかけては「源氏物語千年紀」のイベントが催されたことから例年以上に多くの人が訪れたと聞いている。しかし、家から歩いて僅か五分ほどのところにある紫式部の墓を訪れる人は少なかったという。紫式部が源氏物語と深い関わりを持っていることは誰もが知っているが、そこは寺の境内にある墓地ではなく、清楚ではあるが間口の狭い、奥行きが深いところにある小さな墓だけに余り宣伝されることもなかったからではないだろうか。いずれにしても京都に数多い社寺の庭には建立の当時から大なり小なり手入れの行き届いたタケ林が造られていて、その楚々とした風情や静寂さが訪れる人達の心に安堵感を与えているのである。

今でこそ近隣には空き地もなくなり、個人の住宅で埋め尽くされているが、寺院以外でも住宅の塀越しに数々のタケやササを植栽している庭を垣間見ることができのるのも京都ならではと思うことがある。そうした環境に囲まれて育ったからでもないが何時の間にかタケそのものが生活の糧を得る大部分を占めることとなっていたのである。いうなれば何も気づかない間に優に半世紀を過ごしていたのである。



タケ林の再生と人の協働を

富山県中央植物園

園長 内村悦三

今にして思い返せば戦後すぐの頃は生活の立て直しを計るうとしても物資が乏しくて誰もが苦労したのであるが、それを救ってくれたのは竹だったのではなからうか。家の内外を見ても生活道具一切に始まる。それが各地で見られるのである。それもそのはずで、本来、手作りの品物は品質がよく、型崩れしにくいといっただけでなく、好まれたものであるが、最近のように多くの商品がコンピュータ制御下で機械化されて

まっ、食するもの、飾るもの、住むところのものなど、殆ど全てが竹製品だったといっても過言ではなかった。ところが原材料の生産地だったタケ林が昨今では手入れもされずに放置されてしまい、見るも無残な姿をさらけ出して

て生産効率が高められ、生産コストが軽減されると、手作りで人件費のかかる製品は生産効率も悪く、どうしても商品価格が高くなって、価格競争に勝てなくなってしまうからであり、また、生活の近代化、洋式化といったことも和風感覚を持つ竹製品が若者に受け入れられ難くなってしまうことにも関係ないとはいえないのである。ただ、これだけが竹材の需要を抑制している訳ではないが、だからといって放置しておけば年々タケの本数が増えてきて立入ることすら出来なくなってしまうのである。かつてタケが売れた時代は専門家が伐採し、搬出していたので林地の所有者も管理に特別苦労することはなかったのであるが、このラインが断たれてしまっただけに広い面積の林地所有者にとっては、個人で管理することが出来なくなってしまうといえるのである。ましてや高齢化が進むと。しかしながら、タケを植物としての視点から取り上げてみると、従来からいわれてきた水資源の貯留や土砂流亡の阻止効果だけでなく、二酸化炭素の吸収源



算されるばかりである。ではどうするのか。環境保全に関わることもあるだけに行政の指導と支援を受けつつ協働作業を進めることが必要だといわずにはいられない。ただ、伐採された利用可能な竹材は地域内で有効活用する材料として使うことを考えたいのである。ひきんな例として我々が使っているタケの割り箸の大部分は現在、中国から輸入されているが、箸の黄化を防ぐために使われている二酸化硫黄の残留が僅かであるが認められるという。比較的簡単に作ることのできる割り箸こそ薬剤処理をせずにマイ箸をつくるとカイベント用利用すれば安全、安心のためにも一石二鳥とすることが出来るのではないだろうか。また、簡易炭化法で作った竹炭を使って地域の農地土壌の改良に使うことで地元還元を図るのも一理である。

活動報告

厳しい世相のこの頃だけに、さわやかで美しいタケの姿を思い、風にそよぐ葉ずれの音を聞くことのできるタケのひとききを過ごすのもよき人生かなである。

大沢野国有林 (防風保安林) 竹の除去活動を 協働で実施

富山森林管理署



去る4月18日、きんたろう倶楽部さんと協働で、大沢野地区にあります大沢野国有林において、スギ造林地に侵入してきたモウソウチクの伐採とチップパーによる粉砕作業を行いました。

当国有林は、強風から家屋や田畑を守るため、かつてはアカマツ主体の森林でしたが、マツクイ虫の被害により特に被害が大きかった場所についてスギを植栽し防風保安林と

去る4月18日、きんたろう倶楽部さんと協働で、大沢野地区にあります大沢野国有林において、スギ造林地に侵入してきたモウソウチクの伐採とチップパーによる粉砕作業を行いました。



14日にきんたろう倶楽部事務局の方と協働で歩道作りにかかりました。歩道の作設は、竹をチップ化したものを歩道予定地に敷きながら順次歩道を延長していく方法で行ったため低コストで、しかも、竹のチップのせいか歩道がしっかりと安定し完成することができました。

本番では、竹の伐採と併せて、チップパー機を上下の歩道上に配置して処理して頂いたことから、林内は見違えるほど整理されました。

今では、竹の除去により、日の当たる所にはスギの稚樹が発生してきており、また、かん木なども多く生育してきていますので、今後の山づくりが楽しみです。

来年もまた大沢野国有林へボランティアで来て頂けるよう心からお待ちしております。よろしくお祈りいたします。

私達が今、森から学ぶべきこと

大瀬谷地区里山再生事業地代表
西村 紋治

まず、私の自宅は、家の前には、道路が通っているが、裏は、里山がどんと構えている。道路を挟んだ向こう側も里山の森林があり、大瀬谷と言う名前のおり、谷間に自宅があるようなものである。平成17年の台風23号により、自宅横の杉林が被害にあい、

その後、平成19年度から導入された、富山県の水とみどりの森づくり税を頂き、富山県及び富山市の森林担当者のご指導も頂き、大瀬谷地区は、里山再生整備事業に着手した。普段、里山の中で生活をしておりましたが、改めて、里山の維持管理・継続した整備の大切さ等を実感したところでありました。きんたろう倶楽部さんの協力も頂き、平成19年度より、協働にて、ほだ木



その後、平成19年度から導入された、富山県の水とみどりの森づくり税を頂き、富山県及び富山市の森林担当者のご指導も頂き、大瀬谷地区は、里山再生整備事業に着手した。普段、里山の中で生活をしておりませんが、改めて、里山の維持管理・継続した整備の大切さ等を実感したところでありました。きんたろう倶楽部さんの協力も頂き、平成19年度より、協働にて、ほだ木

大瀬谷地区には、来て作業しているよ。」等の言葉を頂くとは、本当にうれしく、又、有難く思います。

又、6月には、大瀬谷の水路沿いにホテルが舞い、毎年ホテルの鑑賞会をしております。まず、明るい内は、民謡などの踊りを見たり、その後は、水辺へ移動し、オカリナの演奏とともに、ホテルが舞うのを待つのです。

段々周りも薄暗くなり、オカリナの演奏とホテルが合わさって、幻想的な場面となります。その中で、皆さんの様子等を眺めていると、「久しぶりに、こんなに感動した。」

「来て良かった。本当に有難うございました。」子供達からは、周りの杉林と相まって「クリスマスツリーのようにだ」等の声があちらこちらから聞こえてきました。

その様子を眺めていると、自分達の住んでいる、里山がどれだけ自然に恵まれた大切な場所であるか等再確認させられる。やはり、自然はとてつもなく、大切なもので、自然豊かな富山の里山を今後も大切に、次世代への財産として受け継いでいくことの重要性も痛感している。全くの人々が、今まで以上に森林に目を向けていく時代が来たと思う。



森がないと、ほくたち困ります。

私たちは森づくりを応援します。

自分のモノサシをつくろう。

北日本新聞

地球環境貢献活動を応援する
三井物産環境基金

富山造園業協同組合

富山市今泉北部町1-1 寺垣ビル208号

林業機械 販売・修理

(有)新栄商事

石川県金沢市示野西142 ☎(076)268-0101(代)

ドキドキした 植樹

岩瀬小学校 5年 榎田麗湖

わたしはきんたろう倶楽部の方から森林のお話を聞いておもしろいな、なるほどなと思いました。特に富山には森林がどれだけあるかという話はおもしろかったです。植樹に行くのが楽しみになりました。

実際に植樹をしてみると、思ったより大変でした。一本植えるのにもとても時間がかかってしまって、結局三本しか植えられませんでした。でも、三本でも二酸化炭素をなくしてくれるんだな、どれくらいなくしてくれるのかなと、ちよつとドキドキした気持ちになりました。みんなは五本とか七本とか植えていたので、大変なのにすごいなと思いました。

今日みんなで植えた五百本の木で、どれだけ地球に優しくなれるのかなと思うと、す

ごく心の中が楽しくなりました。早く大きくなってほしいという気持ちでいっぱいです。そして、いつの日にか、大きく育った木をみんなで見に行きたいと思います。

森林と植樹

岩瀬小学校 5年 澤田侑奈

わたしは、森林の話聞いていた時には、富山はいなかではないことにすごくびっくりしました。竹がたくさんあることは知らなかったけど、竹は強くてどんどん増えるからだという理由も教えてくださったのでとてもよくわかりました。

6月20日、植樹に行きました。山の中だったので、さすが森だなあと感じがしました。でも植えるのは平らな森の中だと思っていたのに、坂のような斜面だったので、どうしてかなあと思いました。そして、木を植えることがけっこう難しくて大変だったので、森林の大切さが分かりました。

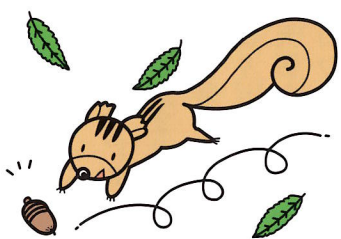
これからは森林のことを調べたり話を聞いたりしてもつと森林にくわしい人になりたいです。しょう来、地球が緑でいっぱいになって地球温暖化がストップすればいいなと思います。そして、動物たちも楽しく安心してくらせる地球になったらいいです。

初めての植樹

岩瀬小学校 5年 村杉裕梨

わたしは、植樹に行くまで森林のことなんて全然興味がありませんでした。だけど、話を聞いて、森林や緑が人や動物たちに必要なものだと分かりました。また、わたしの家を強風から守る働きをしていることを初めて知りました。聞いていくうちにわたしは木を植えるに行きたいという気持ちになりました。

わたしは、植物は種から植えると思っていました。だけど、なえから植えたので意外でした。また、そのなえも同



美林視察 レポート

森田 由樹子

今年のきんたろう倶楽部の「美林視察研修旅行」は、7月22～23日の1泊2日で、長野県飯山市を訪れました。今年の目的地は、長野と新潟の県境の尾根沿いに約80キロにわたって整備された「信越トレイル」を歩くこと、そして飯山市での「森林セラピー」を体験することでした。

22日の早朝にファミリーパー



クを出発したバスは、一路長野に向かいますが、折しもこの日は、「皆既日食」の当日です。9時54分過ぎに欠け始めた太陽が、11時過ぎに最も欠ける部分日食となるとあつて、車中でも「日食メガネ」を使って頭上の太陽を観察しながら、現地に到着いたしました。

初日に歩く「信越トレイル」は、ボランティアの皆さんが、草刈り、道づくりをして整備したという日本では珍しい本格的なトレイル道です。全部を歩くと、5日6日はかかるそうですが、私たちはその一部を歩きます。トレイルガイドの林さんと合流して、まずはトレイル道から、鍋倉山を目指します。幸いにも雨にも降られず、景色を楽しみました。

長野と新潟の県境を歩くので、「右足は新潟、左足は長野」になるのです。

やがて黒倉山に到着し、ここで昼食。お弁当には、朝、取ったばかりのキュウリが一本入っているなど、農家のお母さんが手作りしてくれたような温かいお弁当が新聞紙に



くるまれています。

美味しいお弁当のあとは、鍋倉山にも登頂。そのあとはトレイル道をそれて、巨木のブナの谷に向かいます。ここは「森太郎」「森姫」というシンボリックなブナの巨木があるのです。多くの人が訪れたため、根が踏み固められて弱ってしまったというブナを守るため、今ではガイドの同行なしには入れないシステムになっているそうです。道も狭くて歩きにくいけど、ハードな場所でも、足下にも頭上にも気をつけたいといけない難所でした。

とはいえ、出会ったおじいさんおばあさんのブナの姿は、森の歴史を感じさせるものでした。樹木としては寿命を迎え、いつ倒れてもおかしくない状態だそうで、もしかした

じように見えただけ同じ種類ではありませんでした。わたしの知らない木があることが分かりました。植樹した後を見ると、みんなきれいに並んでいました。なえが大きな木になるまでどれだけかかるのかが楽しみになってきました。大きくなるまでいろいろなお話をしなければいけないのだらうなと思いました。わたしたちといっしょに成長してほしいです。

十年たったらわたしは今日植えた木に会ってみたいですし、わたしは身長をぬかしていると思います。

これが最後の対面になるかも、ということでした。根っこをまたぎながら夕方、下山。およそ6キロほど歩いて心地よい疲れとなりました。宿泊先の「森の家」から、すぐにバスに乗って、「湯滝温泉」に向かいます。ここで温泉にゆつくり浸かって、夕食交流会に。出てくる食事の数々は、地元旬の野菜を使ったヘルシーなメニュー。ズッキーニやナス、トマトといった野菜がこんなに美味しい料理になるとは、と驚くほどでした。

翌朝の食事は、自炊です。サラダやソーセージとともに炊きたてのご飯などをみんなで外のテーブルを囲んでいた。朝ごはんでした。女性軍に感謝。

2日目の体験は、「フルディックウォーキング」と呼ばれる、ストックを使ったウォーキングです。全身運動で健康にもよいウォーキングということですが、まずは練習から。はじめの人がほとんどですが、みなさん、上手にストックを扱えるようになり、飯山の里山



「森林と人シンポジウム」

きんたろう倶楽部では、昨年につき「森林と人シンポジウム」第2回を開催いたします。森と人とのかかわりの大切さについて、こどもたちの発表や、基調講演、パネルディスカッション「森についてわたしたちのできること」を開催いたします。入場無料です。ふるってご参加ください。問い合わせはきんたろう倶楽部事務局へ。

日時 11月23日(月・祝) 午後1時～午後4時
場所 富山国際会議場 3F メインホール

第1部 子どもたちの環境に対する発表会
第2部 基調講演 (株)インテック 中尾代表取締役会長
第3部 パネルディスカッション
 (仮)「森についてわたしたちのできること」



きんたろう倶楽部 平成21年度通常総会報告

平成21年5月22日(金)午
 前10時から富山市ファミリ
 ーパーク自然体験センター
 で開催され、すべての議案が
 提案どおり可決、承認されま
 した。

はじめに西頭徳三会長から、
 きんたろう倶楽部発足から
 3年が経過し、更に三井物産
 (株)様からの助成金事業も2
 年目を迎え、「森を元気に、人
 を元気に、街を元気に」をス
 ローガンに6つの行動ビジ
 ョンをもとに特色ある事業
 の展開に努め、創設の趣旨を
 生かして活動を推進してい
 ので、会員はじめ皆様方の協
 力をお願いしたいと挨拶さ
 れました。

次に、三井物産(株)理事・北陸
 支店支店長 法貴文様から、
 来賓ご挨拶で、自然環境を維
 持するには多くの人々の協
 力が必要であるが、地球環境
 を守る、里山の地域を守るこ
 とに対して皆さんが活動さ
 れることは誠に尊いことで
 あり、当社と共により一層活
 動に努力しようとの激励を頂
 きました。

●議決事項
 第1号議案「平成20年度事業
 報告及び収支決算について」
 会員数789人、活動回数43



●報告
 その他 当面の活動予定の
 報告

●報告事項
 第1号報告「役員選任の報告
 について」森づくり運営委員
 に酒井忠彦氏選任
 第2号報告「平成20年度末財
 産目録と貸借対照表」
 資産(預金)4,743,08
 5円(一般、積立金会計)
 第3号議案「平成21年度事業
 計画及び収支予算について」
 6事業を中心に活発な活動
 の推進を図る、収支予算額1
 5,560,000円
 第4号議案「特別顧問の委嘱
 について」北日本新聞社社長
 河合 隆氏に委嘱

▼今後の活動予定

- 竹たい肥切返し作業と実証実験
 ファミリーパーク内
- 里山林整備 国際大学地内(9月12日・土)
- とやまの森づくりボランティアの集い
 小矢部市論田地内(9月20日・日)
- 飛越源流の森づくり 飛騨市古川地内(10月中旬)
- 里山林整備 日立国際電気の森地内(10月・未定)
- みどりの里親の集い 南砺市福光地内(11月上旬)
- 里山林整備 割山天湖森地内(11月予定、富山市割山)
- 呉羽丘陵竹林整備 西金屋地内(11月・未定)
- 第2回きんたろう倶楽部シンポジウム
 国際会議場(11月23日・月・祝)
- 第6回 森づくり講座(未定)
- 第7回 森づくり講座(未定)

▼編集後記

暖冬だった今年もエルニーニョ現象の影響
 を強く受けているようで多雨、寡照となり梅雨明け
 も平年より遅れました。暖冬傾向は雪国にとつて暮
 らしやすいのは本音ですが生態系などのバランス
 を考えると喜んでばかりもいられません。手入れが
 遅れた里山林が荒廃し、本来雪国などで生息しない
 動物などが北上し農林産物に被害を及ぼしていま
 す。また川の上流部においても森の手入れは遅れて
 いるようで、それはダムなどに溜まった流木などが
 ら容易に想像できます。荒れた里山を整備しようと
 発足したきんたろう倶楽部では引き続きボランティア
 でもできる里山整備を積極的に行い、たとえ微
 力でも地球温暖化防止に貢献できるように会員一同
 楽しんで活動していきたいですね。(事務局松田記)

▼事務局からのお知らせ

今後竹たい肥の切返しを終えたら実証実験とし
 て花や作物などの成長度合いを実験しますのでモ
 ニターになっていただける方を募集します。また森
 づくり講座では北陸電力(株)環境部による流木等
 に関する出前講座を開催し、上流部の岐阜県(市)と
 連携して実地視察などをする予定です。こちらも参
 加者を募集いたします。詳細は今後の活動案内でお
 知らせします。